

事業報告令和5年度 教育事業 ボランティアスキルアップ研修

【対象】法人ボランティア
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

法人ボランティアを対象に自然体験活動を通じて、野外活動における安全管理や野外での応急処置等の知識・技能の習得を目指す。また、仲間と協働した学びあいから、ボランティア活動に対する意欲を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和5年7月1日(土)～2日(日)

(2) 参加者 17人

(3) 日程

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7/1 (土)		受付 開会式	テント 設営	昼食	交流 ゲーム	講義・演習 「野外救命法」	講義・演習 「安全に登山を行うために」	休憩 夕飯のつどい	夕食	入浴	炎のつどい (焚き火) 「自分の未来を考えよう」	就寝 準備	就寝
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
7/2 (日)	起床 準備		守屋山登山 (ご来光登山)			休憩		テント 撤収	野外炊飯 (チョイスクッキング)		アン ケート 記入	閉 会 式	解 散

(4) 企画運営のポイント

- ・プログラムごとに班編成を変え、ボランティア同士の交流を図るとともに、素早く人間関係を構築するスキルの向上を図った。
- ・信州高遠サマーキャンプのトレーニングとして登山に対する知識・技能を高めるとともに、実践として守屋山登山を行った。また、野外での応急手当の方法を学び、実践につなげる準備を行った。
- ・ボランティアとして、また社会人としての「ありがたい姿」を想像し、今の自分と比べることや他の参加者の理想や考え方に触れることでこれからの生き方について考える機会とした。

(5) 参加者の声（一部抜粋）

<事業全体に関して>

- ・たくさんのボランティアと関わることができて、焚き火を囲んでボランティアと自分の未来について考えてみたり、深夜に起きて山を登ってみたりと普段できないとても貴重な体験ができた。

<事業趣旨に関して>

- ・普段は学ぶことのない野外での安全管理や応急処置を専門の人から直接聞くことができ、とても貴重な体験になりました。
- ・こうしたボランティアだけでの関わり合いを通して改めてボランティアでの活動っていいな、もっとこの人たちと一緒に事業をやりたいなって思うことができました。

<各プログラムに関して>

- ・他の参加者と交流するだけでなく、自分達でもゲームを考えたことが良い経験値となった。（交流ゲーム）
- ・改めて思い出してみると自分の思っていた通りとは違っていたりして反復して行うことの大切さを理解できました。野外での危険についてはなかなか学ぶ機会がないのでためになりました。（野外における応急処置）
- ・登山の基本知識を教えてもらうことは初めてだったように思う。特にリスクマネジメントについてよく考えて、子どもたちの交流に活かしたいと思った。（安全に登山を行うために）
- ・自分の未来について考えられるとても貴重な機会となりました。いろんなボランティアの理想を聞いて、この人のこんな

ところを参考にしたいとか、この人こう考えていたんだとか思えて楽しかったです（炎のつどい）

・登山開始時刻は早く、大変な部分もあった。しかし、山頂での感動体験はほかには代えられないものだった。いい思い出で終わらせず、しっかりと今後に生かしていきたい。（守屋山ご来光登山）

・皆で協力して料理を作るとはすごく楽しいことだなと改めて思いました。班それぞれカレーの作り方は違ったけど意見を出し合いながら作ったカレーはすごくおいしくて嬉しかったです（野外炊飯）

<活動の様子>

【テント設営】



【交流ゲーム】



【野外での応急処置（雨天のため室内）】



【安全に登山を行うために】



【炎のつどい】



【守屋山ご来光登山①】



【守屋山ご来光登山②】



【野外炊飯】



【守屋山山頂にて】



(6) 成果と課題

①参加者アンケート結果 アンケート回収 17 名（回収率 100%）

ボランティアスキルアップ研修の 全体を通して	満足：17名	100%
	やや満足：0名	0%
	やや不満：0名	0%
	やや不満：0名	0%

②成果

- ・野外での応急処置、登山、テント設営、アイスブレイク等ボランティアとして必要な様々な知識・技能に関して、体験的なプログラムから学ぶことで、より実践に近い形で習得することができた。
- ・焚き火を囲むという非日常的な雰囲気を出し、心を開きやすい空間を作ることで、自分の未来について前向きに考える機会にすることができた。また、他のボランティアの理想や考え方に触れることで、様々な面で刺激を受け

ることで、ボランティアに対する意欲を高めることができた。

・プログラム毎に班の人数やメンバーを変更したことで、参加者全員の交流を図ることができ、ボランティア同士の繋がりを構築することができた。各プログラムでのボランティア同士の学び合いから、ボランティア活動に対する意欲を向上させることができた。

③課題

・1日目が雨天だったこともあり、野外での活動が制限されてしまった。特に野外での応急処置に関しては、事前の打合せを入念に行うことで、室内でももう少し野外を想定した内容で実施できたと思われる。

・日程が長野県の教員採用試験や大学の集中講義の日程と重なってしまい、参加を希望していたボランティアが参加できなかった。より多くのボランティアに参加してもらうためには、日程についてより情報を集めての検討が必要である。